

実践 2-2② 研修用動画を見て（主に現職の教職員からの声：一部抜粋）

学校現場では、グループでの活動を取り入れてはいるものの、各自の活動が保証されていないので、話慣れている子が主導権を握り進んでいくことがあります。また、一人一人の伝える時間を確保したとしても、それぞれ伝えて終わり…など。多くの場合、指導者は丁寧に行っているつもりでも、その丁寧にするポイントが違っているのです。伝え合う活動のどこをどう丁寧に活動するかが一目瞭然としてわかるのが松井先生のスライドだと思い、感激しています。特に、松井先生のお話の中で、「～を念頭に置いて」という言葉が幾度か出てきますが、すごく大切なポイントだと思いました。いくらいい意見を伝えても、それが単体の活動となってしまうと、感想のない独り言になってしまいます。はじめから最後まで一連の流れになっていることを当事者たちが理解し、続く活動を念頭に置いて「聞く」「話す」をするからこそ、互いが網の目のようにつむがれ、質の高い学びが可能になるのだと思いました。3人の感想を聞いて、さらに自分の意見を客観的に考察できたとしたら、もう深い学びとして確立されます。学び方の基盤を身につけられるとても素晴らしい活動だとおもいました。長くなりましたが、もう一つだけ…感想を伝える際、一対一で行うこと。これが現場のできない「丁寧さ」の一つだと思います。先生は自分が主導しないと不安になり、とかく早くまとめようとするような気がします。現場に必要なスライドです！

教えていただきありがとうございました。昨晚、パソコンで音声を再生しながら勉強させていただきました。ちょうど学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」とはどういうことなのかを勉強しているところでしたので、主体的・対話的な学びの交流活動に繋がる内容なのかと思いました。教科の授業だけでなく、道徳の授業でも効果的だと思いました。また3年生は受験に向けて、4人組で相互の面接練習を行っているので、この他活動をフィードバックの時間に取り入れるのも効果的だと思いました。学校現場で実践して、より主体的・対話的な学びを充実させたいと思います。教えていただき、ありがとうございました。（以下に先生からの学びをノートにまとめたものと、自分が勉強していた対話的な学びについてのノートを添付させていただきます。）

動画、拝見しました。勉強になりました。ありがとうございます。簡単な感想になってしまいますが、送らせていただきます。

- ・「ひらく」という言葉は色々な意味が含まれているのだと思いますが、個人的には「自分の中に内在するものや可能性をひらく」という感じがしていい表現だと思いました。
- ・「ひらく」の「自分の意見をもつ」、「つなぐ」の「自分の意見をしっかり伝える」「相手の意見をしっかり聞く」「聞く側はあとで感想を返すことを念頭に話を聞く」、「つむぐ」の「相手の感想をうなづきながら、共感しながら聞く」など、大切なポイントを改めて確認することができてよかったです。
- ・つなぐ活動終了後の、「自分の中に、自分の意見と感想3人分がある」というスライドが視覚的にわかりやすく、なるほどと思いました。
- ・つむぐ活動はやはり重要だと思います。自分の伝えたことが相手にどのように伝わったのかななどを、自分で検証し、自分を深めていくことになるからです。そういったことがわかりやすく伝わってくる研究でした。
- ・つむぐ活動3回目のときに、座っている位置がななめでもそのまま行うとのことでしたが、私が実践するなら席を移動させて正対しやすい環境にするかなと思いました。（活動の目的をより達成しやすくするため）。

パワーポイント見ました。〇〇中で見せていただいた授業（私も真似しましたが）を更に進化させているのかなと思いました。つむぐという活動で、一対一で正対しての伝え合いを4人組の中で行うことで、以前より強いユニットになっているのでしょうか。クラスの中で、ユニットごとの意見交換の方法などあればまた教えていただきたいです。教務主任や社会科主任に伝えてみます。ありがとうございます。

おはようございます。貴重なデータをありがとうございます。4人組は、先日の先生のご講義のワークショップで実際に体験させて頂いたので、この4人組の良さは、正に実感として理解していました。今回の資料で、理論的に視覚化して拝見できたことで、その素晴らしさについて理解も深まりました。是非とも研究部会や職員研修などでも取り入れていきたいです。4人組では、必ず傾聴してもらえるという安心感、必ずコメントをもらえる信頼感が担保され、さらに、自分の考えを3回（ここも重要なポイントかと）言語化するうちに、他者との関わりで磨かれたり、深まったり、新たな価値を見つけたりすることが可能になっています。聴く側としても、時間内にじっくり聴く（途中には口を挟まない）ことで、質問やコメントを考えながら聴く良いトレーニングともなり、違う意見に刺激を受けて新たな側面に気づいたり、自分の考えが深まったりすると思います。何より、時間内に端的に話すことで、本当に伝えたいことは何かを自分の中で整理でき、傾聴してもらえる心地よさを味わうことで、発信力も、聴く力も高まることが期待できます。まず自分の考えを持つ時間が確保され、4人組の活動を通してこうして課題解決のヒントや近道をお互いに発見できたという体験は、また次の話し合いや課題解決につながっていくと思われれます。4人組ならではの活動の流れが確立しているからこそ、実現可能な効果だと思えます。拙い感想のみで申し訳ございません。部会や校内研究推進の先生方などに、資料を共有させて頂いてよろしいでしょうか。今後ともご指導宜しくお願い致します。

これからの教育においては、「主体的、対話的な深い学び」が重視されてくる。主体性が重視されるのは、ICT技術が急速に発達するなど激動する時代にあり、自ら人生を切り開いていけるよう、自ら問いを立て、解を見つけていくような能力が求められているだけでなく、人生100年時代とも言われる中で、生涯にわたって学び続けることが求められているからである。中でも、主体性が求められるのは本人のやる気、能動的な態度が育成されなければ学び続けることができないからだ。では、こうした態度をどう育成していけばいいのだろうか。千葉大学教育学部の松井聡教授の実践に基づいた研究は、そのヒントになるものではなかろうか。他者との学び合うことを意識し、自己肯定感を高めることで「主体的、対話的な深い学び」をするためのヒントがあるように感じた。松井教授はこの過程を、自分の意見を持つ「ひらく」、自分の意見を伝え、相手の感想を聞く「つなぐ」、1対1で感想を伝え合う「つむぐ」という三つの活動に分けて説明している。実践活動に取り組んだ学生へのアンケートもしており、その結果が興味深い。私が注目したのは、相手の話を聞くことには「とても良く聞けた」という回答が91.0%にのぼっているのに対して、自分の言葉が相手に伝わったかという問いに関しては「とてもよく伝わっている」との回答は49.7%にとどまっていた。「まあまあ伝わっていると思う」を加えると90%を超えるものの、対話的な学びにおけるコミュニケーション能力の醸成に何らかの課題があるのではないかということを感じた。今後、この点に関しての研究が進むことに期待するとともに、ICT教育が進む中で、コミュニケーション能力をどう醸成していけばいいかに関して、現場からの実践報告が出てくることを期待したい。